

氏名 三 谷 健

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1806 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和62年 6 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目  $^{99m}\text{Tc}$  標識肝・胆道造影剤による体質性黄疸の経時的シンチグラフィ、ならびに肝細胞癌の陽性描出に関する研究

論 文 審 査 委 員 教授 太田善介 教授 青野 要 教授 木村郁郎

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

体質性黄疸, ICG 排泄異常症に  $^{99m}\text{Tc}$ -HIDA および  $^{99m}\text{Tc}$ -PI による経時的シンチグラフィをおこない, 以下の結論を得た。

- 1) Dubin-Johnson 症候群においては  $^{99m}\text{Tc}$ -HIDA の肝臓への摂取は正常がやや早めであったが, 肝臓より胆道系への排泄は極めて遅延していた。なお血中での  $^{99m}\text{Tc}$ -HIDA の再上昇は認められなかった。これに対して,  $^{99m}\text{Tc}$ -PI では肝臓への摂取, 胆道系への排泄は正常であった。
- 2) Gilbert 病及び ICG 排泄異常症では  $^{99m}\text{Tc}$ -HIDA,  $^{99m}\text{Tc}$ -PI 肝臓への摂取および排泄の状態は正常例と同じであった。
- 3) Rotor 病においては  $^{99m}\text{Tc}$ -HIDA,  $^{99m}\text{Tc}$ -PI 共に 2 時間までの撮影で肝影は全く出現せず, 両側腎影が強く認められた。すなわち肝臓への HIDA, PI の摂取が極めて悪いため, 大部分が腎臓より排泄されたと考えられる。

$^{99m}\text{Tc}$ -EHIDA の肝細胞癌への集積を検討した結果, 15 例中 3 例 (20%) に  $^{99m}\text{Tc}$ -Sn colloid 肝シンチで欠損像を呈する部位に一致して, 陽性の摂取像が認められた。従って, 本法は肝腫瘍の質的診断に有用である。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は体質性黄疸, ICG 排泄異常症に  $^{99m}\text{Tc}$ -HIDA および  $^{99m}\text{Tc}$ -PI により経時的シンチグラフィをおこなったもので, Dubin-Johnson 症候群, Gilbert 病及び ICG 排泄異常症, Rotor 病, 肝細胞癌で経時的シンチグラフィ上特徴が認められた。これらは臨床的に有意義な新知見である。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。